

## はじめに

今年の循環ワーカー養成講座テーマは「未来をつくる CSR3.0 企業」です。CSR とは「企業の社会的責任 (Corporate Social Responsibility)」のこと。CSR への関心が高まり、日本の CSR 経営元年と言われた 2003 年から今年でちょうど 10 年になります。

ふり返りますと、バブルの崩壊した 1990 年代は「失われた 10 年」と呼ばれながら企業の環境への取組が盛り上がりを見せます。92 年にはリオ地球サミットが開催され、94 年には気候変動枠組条約発効、96 年には ISO14000 発行、97 年には地球温暖化防止京都会議が開かれます。社会的側面やガバナンスでも 90 年に経団連 1%クラブ設立、91 年に経団連企業行動憲章策定、94 年に PL 法成立、99 年にはグローバルコンパクトの提唱などの動きがあります。CSR の 3 つの要素 E (環境)、S (社会)、G (ガバナンス) が 90 年代に準備されていました。しかし、90 年代に企業が展開する CSR は慈善活動やメセナなど本業以外の活動が主であり、それは「CSR1.0」の段階だったと言えます。

2000 年代に入りますと、00 年に経済同友会の「21 世紀宣言」が出され、02 年には経団連「企業行動憲章—社会の信頼と共感を得るために—」、GRI ガイドライン (第 2 版) が発表されます。そして、CSR 経営元年と呼ばれる 2003 年には経済同友会が第 15 回企業白書「市場の進化」と社会的責任経営を発表し、そこで企業評価基準 (評価シート) も提示されました。経団連も 2005 年に「CSR 推進ツール」を発表しています。まさに経済界挙げて、大手各社が本業を通じた CSR に取り組む「CSR2.0」の時代が到来しました。しかし一方で、2000 年代は企業不祥事の時代でもありました。三菱自動車リコール隠し事件、エンロン事件、牛肉偽装事件、ライブドア事件、船場吉兆事件、ミートホープ事件など、CSR、とりわけガバナンスやコンプライアンスが問われる時代でもありました。

そして 2010 年代、「CSR3.0」の時代です。気候変動はじめ地球環境問題は深刻化し、世界を自然災害が襲い、原発事故も起きました。食糧・エネルギー・資源をめぐる紛争、テロ・核戦争の脅威も高まり、その陰にある社会的弱者の人権侵害も見逃せません。多様な社会的課題の解決に対する企業の社会的責任は重くなりつつありますが、一方で社会的課題の解決の責任を企業にのみ押し付けることもできません。循環研が考える「CSR3.0」とは「ステークホルダーとともに社会的責任を共有しながら経済・社会・環境価値を共創し、持続可能な社会を構築する CSR」です。ステークホルダーとともに「SR シェアリング (社会的責任の共有ないし分有)」をしながら社会的な課題の解決をめざす活動です。今回の講座では、そんな CSR3.0 活動の最前線の取組を担当者や経営者にうかがいました。多くの企業・組織とそのステークホルダーにとって SR シェアリングの参考になれば幸いです。

最後になりましたが、講師の方々、ご後援、ご協賛いただいた方々に心から感謝申し上げます。

2013 年 3 月

NPO 法人循環型社会研究会 事務局担当理事 久米谷 弘光